

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
そなえる…用意する、そろえる、用心する
防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
そなえ…したく、用意。警戒。防衛
備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
そなわる…準備ができる、身に付く
●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!

no. 21

かわさき
防災広報紙

昭和61年4月30日発行
編集・発行：
川崎市土木局防災対策室
〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
TEL.(044)200-2111内線2841



パニック！



さよなら、ハレー彗星：76年に一度といわれるハレー彗星も、いろいろな話題を残して、地球から去っていきました。

いまでこそ、「宇宙のロマン」などといわれ、さまざまな調査が行われていますが、いまから76年前の明治42年にハレー彗星がやって来たときには、今回よりもはるかに地球の近くを通過して、大きく見えたため、「地球が彗星の尾の中に入ってしまった、人類は全滅する」といううわさで、大混乱になったといわれています。

このように、人々が危険な状況におかれたときに、正常な判断力を失った行動をするような状態を、ふつう「パニック」といいます。

「後で考えてみると、あわてていて、どうしてあんなことをしてしまったのだろうか？」という苦い思いは、心の小さなパニック。

大地震や火災、事故などが発生した場合、このパニックが、想像した以上に被害を大きくしてしまいます。少しでも災害を小さくするために、考えてみましょう。

ふだんから、備える

★ 毎月15日は川崎市民地震防災デーです ★

ゆっくり、備える。

その1
パニックはどんなとき
起きやすいのでしょうか

昔のハレー彗星のようなときをはじめ、火災のとき、事故のとき、そして大地震のときなどですが、いつでもその危険はあります。

●特に、人が大勢集まって、右往左往しているようなときは、危険です。

その2
パニックが起ると
どうなるか

例1
火災や事故などのとき、一斉に出口などに殺到して、将棋倒しになったりして、一度に大勢の人が大ケガをしたりします。

例2
デマなどが起きて、無用な混乱が起きやすくなります。

例3
昨年の秋、ヨーロッパのサッカー選手権の試合前、両チームのファン同士が混乱を起し、一方のファンが一斉に先を争うようにして、逃げようとしたため、下の方に



た人が後ろから押されて、何十人も死するという事故がテレビで映し出されました。テレビで見ると、後ろの方が人が、ほんの一步ずつ後ろにさがればケガ人さえ出そうもないのに!

●冷静に考えれば「何でこんなことに」と思うようなことが、パニックでは、起こります。

避難時の行動特性

①非常時には、直感行動になりがち
②左回りや左側通行になりがち
③明るい所や壁の隅にたどる
④いつものルートをたどる
⑤人に追従してしまう

その3
さしあたって
これだけは

いくらあわてるなどいっても、本当に落ち着いていられるようには、ほとんどいきません。

①それでも、なるべく早く、冷静に戻るためには、まず、その場で正しい防災の知識を身に付

けておくことが大切です。

- 一度に出口などに殺到しない
- 「落ち着け!」と声を掛け合う
- 係員などの指示に従い、自分勝手な行動をしない
- デマに気をつける
- ふだんから、「失敗しても、大丈夫」のように、それぞれの場所での訓練を繰り返してやっておく

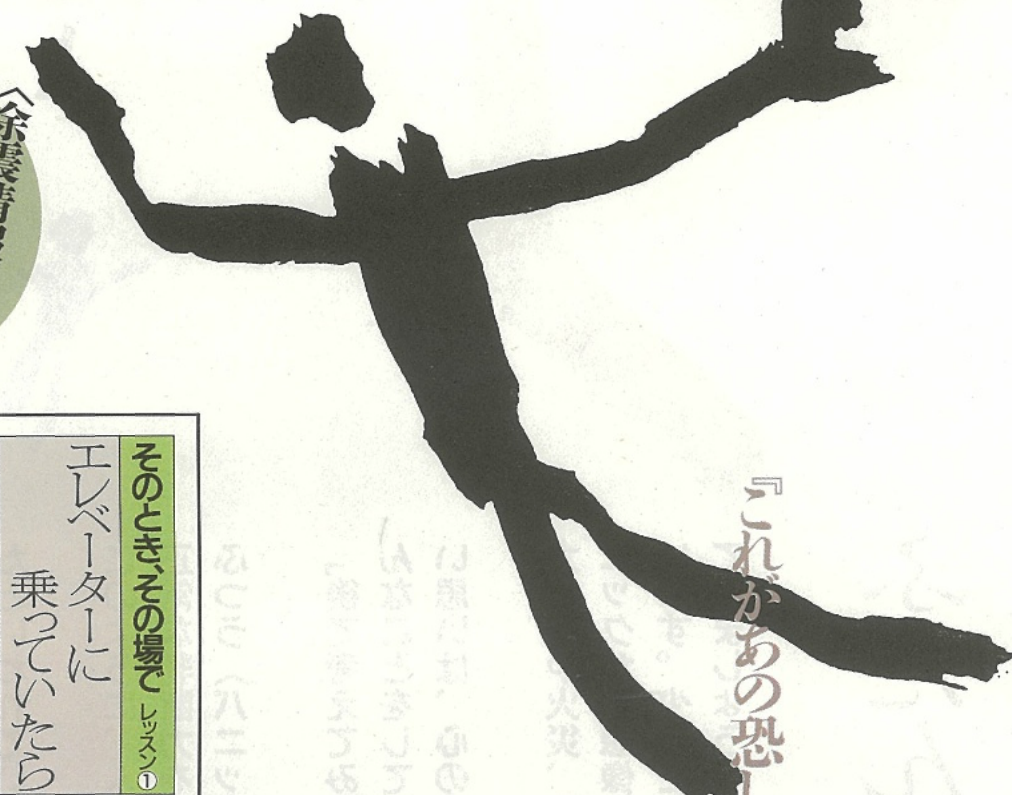
特に、たくさんの方が出入りするような施設では、その場の責任者のリード次第で、被害が大きく違ってきますし、非常の時に一人が、その場でやらなければならぬ役割を果たすことによって、周りの人にも冷静な行動を促すことができます。

「東海地震」の警戒宣言

現在、東海地方で発生が予想されている「東海地震」に限って事前に発生を予測して警戒宣言が発令されます。

この警戒宣言は、「いつ大地震が起きて安全なようにしてください」という呼びかけのためのものです。

警戒宣言についての正しい知識を身につけておきましょう。



余震情報「ヒック」

1978年1月、伊豆大島近海地震の発生直後に、静岡県が発表した余震情報が、住民のあいだに広がるうちに流言化し、「余震を発生させた」といわれる混乱を生み出した。

そのときその場でレクソン①
エレベーターに乗っていたら

●地震、火災の時は使わない
●乗っているときには、押しボタンをすべて押して、一番近い階で安全を確認して降りる
●停電等で止まったら、インターホンを使って連絡する。無理に出ようとしない。

『これがあの恐ろしい地震が起きる前ぶれだったなんて』

伊豆大島近海地震体験記

1978年伊豆大島近海地震(静岡県提供)
河津町立西中学校3年(当時) 長田吉弘さん

1月14日、土曜日、雨後くもり、その日は、朝からたびたび小さな地震が起っていた。最初に地震を感じたのは、2時間めの授業をしている時だった。ガラス窓が「ガタガタ」と音をたてて揺れたぐらいで、別にどうということはないが、これがあの恐ろしい地震が起きる前ぶれだったなんて、だれもが思わなかったらどう。

土曜日だったので、午前中で授業も終わり、下校の時間であり、学校に残って弁当を食べていた生徒、帰りにたたくの生徒、バス停でバスの来るのを待っていた生徒、とさまざまだった。私は、湯ヶ野のバス停にいて、友だちとバスの来るのを待ちながら、雑誌を読んだり、雑談をしていた時だった。

「ゴーン」という地鳴りがしたと同時に「グラグラ」と激しく揺れはじめた。

ぼくたちが待っていたバス停の店の棚の物やつくえの上にあった物がとび散るようになってしまった。私は、無我夢中で、柱につかまっているのがやっとだった。友だちのなかにはつくえの下にかくれたり、ガラス戸が倒れないように支えている者もいた。その間わずか10秒くらいだったと思うが私にはとても長い時間のように感じられた。

激しい揺れおさまると、道路に出てみると、道路には亀裂がはいり、アスファルトは黒々と口を開け、瓦は落ち、くたけて散乱し、地震の激しさをまざまざとみせつけていた。

しばらくぼうぜんとした私たちは、3年生4人でこれからどうしたらよいかと話しあった。停留所付近の被害から判断し、バスはもう通らないだろうから、家まで歩いて帰る以外に方法はない、ということになった。

私たちは湯ヶ野から上の集落の小学生、中学生を集めた。幸いに「けが」をした者はひとりもいないのでホッとした。みんな無事だった。梨本、泉原、川合野の生徒は、小学生10名、中学生15名、の合計25名だった。

小さい小学生を囲むように、中学生が先頭と後ろに、2列に整列し、私たち3年生が誘導する形で歩きはじめた。道路の中央を注意深く歩いた。途中石垣がくずれ、自動車が道路から落ちているのを見て、地震の被害が予想以上に大きいことを知った。歩きながらも余震が何回となくやってきて不安だった。

湯ヶ野停留所より150メートルくらい歩いた。学校の上の校庭の見える所まで来た時、運動場に避難している仲間を見つけた。下から先生が呼んでいるのに気がついた。とっさに「運動場に避難してからだ」と判断し、運動場の避難所に向かった。運動場には校舎から、帰宅途中の路上からと大勢の友だちが集まっていた。私たちも運動場に降り、先生方の指揮の中はいり、第2の避難の体制にはいった。

それまで上級生としての責任感とか、大変なことになった、小学生や、1、2年生、集落の子ども、みんなを無事にと張りつめた気もちで行動していたのが学校につき、先生方の顔を見た瞬間、ホッとすると同時に、急に緊張感が解け、その場にすわり込んでしまった。(略)



毎月15日は川崎市民地震防災デーですが、この一環として3月19日に当センターで防災対策室主催の防災講演会が実施され、小田地区8町内会74名のみなさんが出席されました。

当日は、自主防災組織の必要性についての講演に続いて、映画「炎に勝った人々」の上映、地震体験、消火訓練が実施されました。

関東大地震の時に、住民の気力で焼損が残った神田佐久間町と和泉町の例があるように、大地震と同時に発生する火災から自らを守り、家を守り、町を守るためには、いかに地域ぐるみの防災活動が大切であるか、また、日ごろから自主防災組織活動をしっかり行うことの重要性を訴えた講演会でした。

●南部防災センター見学ご希望の方は
川崎区小田7-3-1
電話=355-2175
交通機関=川崎駅前東口9番バス乗り場
臨港バス 富士電機行
「小田小学校前」下車徒歩6分

日ごろの対策はだいじょうぶですか?